

再度、憲法審査会委員へのF A X 要請行動を呼びかけます

2023年 4月12日 大阪憲法会議

連日のご奮闘に心から敬意を表します。

岸田内閣は、国民を犠牲にして、大軍拡に突き進む戦後最悪の2023年度予算を成立させ、さらに安保3文書に基づき今後5年間で43兆円もの大軍拡のため新たに「防衛力強化資金」を創設することを盛り込んだ軍拡財源確保法案の成立を狙っています。民主主義委を踏みにじり、戦争国家づくりを推し進める岸田政権の大暴走が通常国会を舞台に続いています。

日本の敵基地攻撃能力の行使に他国が反撃し、大規模被害が日本全土に及ぶことを前提に軍備増強を強行する岸田内閣。敵基地攻撃兵器であるスタンド・オフ・ミサイルは射程が最大2000キロに及び、沖縄を起点とした場合、アジアの大半が含まれます。敵基地攻撃能力の保有は憲法違反であるだけでなく、国際法違反の先制攻撃を前提とした米軍の「統合防空ミサイル防衛（IAMD）」に参加し、自衛隊が米軍と一体に同能力を行使する危険も明らかになっています。

日本が集団的自衛権の行使で米軍の戦争に参加して敵基地攻撃を行えば、相手国が報復で応じた末に国土が焦土化する最悪のシナリオが想定されています。防衛省は今後5年間でだけで4兆円を投じ283地区（47都道府県）もの自衛隊基地の「強靱化」を計画しています。核兵器をはじめ化学・生物、放射性物質などによる攻撃を想定し主要司令部を地下化しようとしているのです。敵基地攻撃を行い、反撃されて日本中が攻撃にさらされる危険を前提にした計画です。

いま、私たちが求めているのは「戦争の準備」ではなく「平和の準備」です。「憲法改正」ではなく、「憲法をいかした政治の実現」です。

3月2日以降、衆議院憲法審査会が毎週開催され、改憲に前向きな政党からは、憲法改正に向けて改憲条文の策定を求める声があがっています。これに対して、日本共産党の赤嶺政賢委員は「今必要なのは、改憲のための議論ではなく、憲法に反する政治をただすことだ」と指摘し、「岸田政権が推し進める大軍拡は憲法を破壊するものだ」と批判しています。また、4月5日には参院憲法審査会も開催されました。

この事態のもと、大阪憲法会議は、憲法審査会委員（衆院）に向けたFAX行動を3月8日各団体地域のみなさまに呼びかけさせていただきましたが、今回は参院の次の大阪関係の各委員へ別紙抗議要請書のFAX送信を呼びかけます。また、立憲民主党の辻元清美委員には、激励のFAXをお送りください。なお、個人でお送りの場合は個人名でお送りください。

よろしく申し上げます。

<抗議要請書>

自民 委員 松川 るい（まつかわ るい） FAX 03-6551-0407

維新 委員 浅田 均（あさだ ひとし） FAX 03-6551-0621

維新 委員 東 徹（あずま とおる） FAX 03-6551-0510

<激励要請書>

立憲 委員 辻元 清美（つじもと きよみ） FAX 03-6551-0613

<抗議要請書>

参院憲法審査会委員 (議員名) 様

国民は改憲を政治の優先課題として求めています。改憲原案づくりに直結する憲法審査会を開催しないでください。

フルスペックの集団的自衛権を認め、海外で戦争する自衛隊にする憲法9条への自衛隊の明記には断固反対です。

「緊急事態」と宣言すれば、内閣総理大臣に権力が集中され、国民の私権・人権と生活が制限されてしまう憲法違反の緊急事態条項の創設には反対です。

戦争準備のための大軍拡・増税に国民は怒っています。「安保関連3文書」閣議決定の撤回を求めます。

2023年 4月 日

住所

団体名

代表者名

参院憲法審査会委員 辻元 清美 様

国民は改憲を政治の優先課題として求めています。改憲原案づくりに直結する憲法審査会を開催しないでください。

フルスペックの集団的自衛権を認め、海外で戦争する自衛隊にする憲法9条への自衛隊の明記には断固反対です。

「緊急事態」と宣言すれば、内閣総理大臣に権力が集中され、国民の私権・人権と生活が制限されてしまう憲法違反の緊急事態条項の創設には反対です。

戦争準備のための大軍拡・増税に国民は怒っています。「安保関連3文書」閣議決定の撤回を求めます。

市民の立場に立ち、憲法を守るため、立憲民主党 頑張れ。

2023年 4月 日

住所

団体名

代表者名
